



# 輝け！北っ子

令和2年1月8日発行

1月号

発行責任者 紺野 宗作

## 2020年 真心の鏡を曇らせないように

令和2年第3学期がスタートしました。始業式では、自分を成長させるために、目標を持つこと。そして、目標に向けて自分なりの計画を立てることの大切についてお話ししました。

右の写真をご覧ください。北小学校の校門から入ったところに、このような石碑があるのをご存じでしょうか。出光佐三「まごころ」と刻まれています。出光佐三さんとは現在の出光興産の創始者で



すが、実は今から50年前、出光佐三さんが北小学校で「真心の鏡を曇らせないように」という題で講演しており、その時の記念碑だということがわかりました。私は、無性にどんな話の内容かを知りたくなり、講演記録がどこかに残されていないか調べました。市立図書館のご協力により、その講演記録が、なんと福岡県立図書館に蔵書されていることがわかり入手することができました。

私は、その講演内容を読み、「このことは時代を超えて、今の子ども達にも伝えたいことだ」と思い、始業式で、自分が持っている真心の鏡を曇らせないように、また、みがくにはどうしたらよいか？と投げかけ、出光佐三さんの思いを、時を超えてお話をさせていただきました。

ここに、始業式の話の内容の一部を紹介します。

今、持っている美しい真心の鏡を曇らせなくてほしい。しかし、人は、何もしなければどんなきれいな真心の鏡でも自然に曇っていきます。では、どうすれば真心の鏡は曇らずみがくことができるのでしょうか？

それは、自分から進んでよいことを「勇気」を持って実践することです。

例えば、お年寄りが重い荷物を持って困っているとします。でも、手をさしのべるまでには勇気が必要です。しかし、人に親切にしたときの心地よさは、実際に親切にしたことがある人しかわかりません。勇気を持って親切にしたときに、皆さんの真心の鏡がみがかれるのです。

あいさつも同じです。普段あいさつが苦手な人は、声に出してあいさつするには勇気がいります。あいさつを交わしたときの心地よさは、実際にあいさつした人しか味わえません。勇気を持ってあいさつしたときに、皆さんの真心の鏡がみがかれるのです。

ゲームのやり過ぎに気づいて、自分でやめるにはやはり勇気がいります。しかし、お父さんやお母さんに言われなくて、自分でやり過ぎに気づいてやめたときの心地よさや自信は、その経験をした人にしかわかりません。自分の力で自分をコントロールできたとき、皆さんの真心の鏡がみがかれるのです。

どんなきれいな真心の鏡でも、自分でみがかないと何にも映らない鏡になってしまいます。

どうか皆さんの真心の鏡をみがき続ける2020年にしてください。

# 「家読（うちどく）」を推奨しています

読書は、想像力や考える習慣を身に付け、豊かな感性や情操、思いやりの心を育むことができます。ですから、子どもたちには本を読む習慣を身につけてほしいと思っています。すべての子ども達に本を好きになってほしいことを願い、「家読」を推奨している理由です。実は、もう1つ大きな理由があります。それは、絵本というツールを活用して「家族の絆」を深めてほしいからなのです。その背景に、ゲームやSNS等の社会問題があり、さらに、拍車をかけるのが児童虐待の問題があります。

親として家族団らんの場を積極的に考えることはとても重要だと思っています。子どもの成長、そして、今後の人生にとって有意義なものだからです。今の子どもたちの特徴として、極端に自己主張が強かったり、逆に全く自己主張ができなかったりなど人間関係をうまく築けないという問題があります。また、情緒の不安定傾向が多く見られ、学校での集団活動で不適応を起こしやすい問題も大きいのです。このことは子どもの人生にとって学業以上に大きな課題です。

このような問題の遠因に家族とのコミュニケーションの問題があると考えています。家族とリラックスしておしゃべりすることで、自分の話を聞いてもらえる、認められているという認識につながり、「自分はこれでいいんだ」という自己肯定感を生み出します。自己肯定感が育まれれば、「やればできる」という気持ちが強くなり、社会に出ても精神的に強くいられるのです。

学校で1～4年生で行っている「リレー家読」は、家族団らんづくりのきっかけとしてとても有効です。家族で1冊の本を読み合い、感じ方の違いを話し合うことで、人の話を聞く、考える、複数の人と話す。子どものときは特にこういった基本的なことを身に付けるための大切な時間になります。ゆったり話し合う中で、子どもにとっては「何があっても親だけは味方」という気持ちを持てるようになります。そして、何事にも積極的に取り組める子どもに育っていきます。子どもは、家族の絆が確認され、愛されていると感じる時、安定した気持ちで問題に立ち向かうことができるからです。そして、不必要に攻撃的にならず、他者や問題を受け入れることができ、大きく成長できるのです。そんなたくましい子どもになってほしいと願って「家読」を推奨しているのです。

\*「家読」のアンケートにおける意見を掲載します。多くの方が楽しく取り組んでいただいているようです。無理せず、できる範囲で続けていきたいものです。

小さい頃は絵本をよく読んでいたのですが、最近はそれもなくなり家読をすることでお互いにどう思ったか話し合うことが楽しみの1つです。読書する環境を家でも作っていきたいです。

色々な刺激のある中で、読書をする時間というのは大切だと思っています。家読は今後も継続してやっていただきたいと思います。子どもも親も一緒に好みや考え方について語り合える良い機会となっています。

子どもが小学生に入ってから一緒に本を読む機会がぐっと減ってしまいましたが、家読で、またその時間を持てるようになりました。シリーズものの続きを、その後も購入して読んだり、その先を想像して話し合ったり、有意義な時間が増えました。ありがとうございます。

家読は、本のことについてお互い考え方が違っていたりして、意見の交換などが活発となり、子どもとの会話が増えてよかったです。

